

4-2 だれもが気軽にスポーツを楽しみ、元気になるまち

施策14

市民スポーツの振興

目的	対象	市民
	意図	だれもがスポーツに親しみ、楽しむことができる スポーツを通して交流がはぐくまれる だれもがスポーツを通して心身ともに健康になる

○ 施策の方向

年齢や障害等を問わず、広く市民がスポーツに親しみ、楽しめる環境を整備します。また、ラグビーワールドカップ2019™日本大会と東京2020大会を契機としたスポーツの振興を通して市民の交流が盛んになるまちを目指します。

○ 施策のポイント

- 「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」に基づく、だれもが、それぞれに応じた活動を通じ、スポーツ活動を楽しむことができる事業の推進
- 2020年に向けた調布市アクション&レガシープランに基づく、スポーツを支えるボランティアや団体の確保・育成
- 子どもから高齢者までライフステージに応じて気軽にスポーツや健康づくりに参加できる機会の提供によるスポーツ活動の推進
- バリアフリーへの配慮や市民ニーズに沿った魅力あるスポーツ施設など、安全で快適な市民のスポーツ環境の整備

基本的取組の体系

施策14 市民スポーツの振興

基本計画事業

14-1 スポーツ環境の整備

スポーツ施設の整備

p.138

14-2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

調布市体育協会事業の支援

p.139

★東京2020大会等を契機としたスポーツ振興による多面的効果の創出 p.139

14-3 FC東京等と連携したスポーツ振興等の推進

FC東京等と連携したスポーツ振興等の推進

p.140

★重点プロジェクト4

○ 現状と課題

- 平成23（2011）年8月に国及び地方公共団体の責務及びスポーツに関する施策の基本となる事項等を定めたスポーツ基本法が施行されました。また、国は、平成24（2012）年3月に今後の日本のスポーツ施策の具体的な方向性を示すスポーツ基本計画を、平成29（2017）年3月には第2期スポーツ基本計画を策定しました。
- 東京都では、平成30（2018）年3月に東京都スポーツ推進総合計画を策定し、2020年とその先を見据え、「都民のスポーツ実施率70%を達成し、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しみ、スポーツの力で人と都市が活性化する『スポーツ都市東京』の実現」を目指しています。

- 市内には、ラグビーワールドカップ2019™日本大会や東京2020大会の競技会場となる東京スタジアム（味の素スタジアム）や武蔵野の森総合スポーツプラザ等の大規模スポーツ施設をはじめ、各地域の身近なスポーツ施設が立地しており、多摩のスポーツの一大拠点として、多くの市民がスポーツに親しみ、楽しめる環境が整備されています。
- 市のスポーツ施設は昭和50年代に竣工した施設が多く、公共建築物維持保全計画と公共施設等総合管理計画に基づき、市民が安全・安心に使用できるよう、老朽化した施設の修繕や改修を行いながら、引き続きバリアフリーへの配慮や市民ニーズに沿った魅力ある施設の提供に努めていく必要があります。
- 調布市が実施しているスポーツ関連事業等の参加者数は横ばいであり、引き続き、より多くの市民が日頃からスポーツに親しめるよう、障害者スポーツの普及・推進を含め、だれもがスポーツに参加できる機会の充実を図っていく必要があります。
- 調布市は、F C東京と連携して様々な取組を実施しており、平成30（2018）年にF C東京がクラブ創設20周年を迎えたことを契機に、市民がスポーツに親しむ機会や交流をより充実させ、引き続き、市民スポーツの振興、青少年の健全育成、地域振興等のまちづくりを協働で推進する必要があります。
- プロバスケットボールチーム「東京サンレーヴス」の選手による実技指導や、調布市をホームタウンとするアメリカンフットボールチーム「リクシルディアーズ」との交流イベント、まちなかラグビー、アスリート交流事業などを通じて、多様な主体と連携していく必要があります。



味の素スタジアム（東京スタジアム）

基本的取組の内容

14-1 スポーツ環境の整備

◆スポーツ施設の整備・改修

スポーツ施設をより効率的かつ効果的に維持管理・運営していくため、各施設の利用実態や老朽化の状況などを踏まえ、利用者の声や地域の特色を生かした安全で利便性の高いスポーツ施設の整備に努めます。

調布基地跡地における留保地（国有地）については、国との協議を継続し、「防災・スポーツ・レクリエーション機能を有する公園」としての活用について、引き続き検討を進めます。

◆スポーツ・レクリエーション情報の提供の充実

より多くの市民がスポーツ・レクリエーション活動に主体的に参加できるよう、様々な媒体を活用してスポーツ施設やイベントに関する情報を分かりやすく魅力的に発信するなど、スポーツ・レクリエーション情報の提供の充実を図ります。

◆スポーツ指導者の育成

調布市体育協会等の関係団体との連携・協力のもと、アスリートを目指す活動や地域住民による主体的なスポーツ・レクリエーション活動などを支える指導者の育成と資質の向上を図ります。

◆次世代アスリートの発掘・支援

調布市体育協会と連携し、スポーツ教室や地域のスポーツ大会、報奨金制度の活用など、子どもたちのスポーツ活動を通じて、次代を担う優秀なスポーツ選手の発掘・支援に取り組みます。

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値
体育施設の年間利用者数	105万4,986人 (平成29(2017)年度)	107万人 (令和4(2022)年度)

基本計画事業

No.	45				
事業名	スポーツ施設の整備	区分	継続	担当課	スポーツ振興課
事業の概要	スポーツ施設の計画的な維持保全・改修を行います。				
年度別計画	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
	○既存施設の維持保全・改修 ・調布市民プール ・総合体育館 ・緑ヶ丘テニスコート ・西調布体育館等	○継続	○継続	○継続	
事業費 (百万円)	58	250	100	100	



調布市総合体育館

14-2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

◆だれもがスポーツに参加できる機会の充実

それぞれの年齢や体力などに応じ、より多くの市民が生涯を通してスポーツに親しむことができるよう、市民体育祭や市民スポーツまつり、市民駅伝競走大会、リフレッシュ健康体操事業等を引き続き実施し、子どもから高齢者まで、各世代のニーズに合わせたスポーツ参加機会の充実を図ります。また、東京2020大会（パラリンピック大会）の開催を契機とした障害者スポーツの支援に取り組みます。

◆地域スポーツクラブ等の育成・推進

スポーツ・レクリエーション活動を通じて、地域コミュニティの活性化にもつながるよう、地域スポーツクラブを育成するとともに、市内の企業や大学などと連携・協力しながら、地域に根差したスポーツ・レクリエーション活動の充実をめめます。

◆地域における子どものスポーツ機会の確保

身近な地域で子どもがスポーツを楽しめる環境づくりを進めるため、スポーツ推進委員や調布市体育協会、総合型地域スポーツクラブ等と連携したスポーツ教室や地域のスポーツ大会の開催など、スポーツ参加の機会の確保を図ります。

◆ラグビーワールドカップ2019™日本大会・東京2020大会を契機とした障害者スポーツ等の振興

ラグビーワールドカップ2019™日本大会や東京2020大会の会場となる東京スタジアム（味の素スタジアム）及びその周辺施設が立地する地元市として、国や東京都、関係団体等の多様な主体と連携し、市のまちづくりへの多面的な効果を創出していく中で、とりわけパラリンピック開催を契機とした障害者スポーツの振興に取り組みます。また、スポーツボランティアの確保・育成等を通じて、だれもがスポーツに参加できる機会の充実や環境づくりに取り組みます。



武蔵野の森総合スポーツプラザ



調布市民駅伝競走大会の様子

14-3 F C東京等と連携したスポーツ振興等の推進

◆ F C東京との協働のまちづくり

味の素スタジアムを本拠地とするF C東京とのパートナーシップに基づき、F C東京のコーチによる子どもサッカー体験教室や指導者講習会、障害児・者を対象としたサッカースクールなどをはじめとする様々な事業を通じて、スポーツ振興、青少年の健全育成、市民の健康づくり及び地域振興等のまちづくりをF C東京と連携して推進します。

◆ 地域ゆかりのチームや選手を通じたスポーツ振興

F C東京をはじめ、調布市にゆかりのあるプロスポーツチームやスポーツ選手を応援し、スポーツに親しむ機会づくりや交流を促進します。

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値
F C東京と連携したスポーツ事業の参加者数	653人 (平成29(2017)年度)	900人 (令和4(2022)年度)

基本計画事業

No.	48				
事業名	F C東京等と連携したスポーツ振興等の推進	区分	継続	担当課	スポーツ振興課
事業の概要	プロサッカーチームのF C東京等と連携し、市民スポーツの振興、青少年の健全育成、市民の健康づくり及び地域振興等のまちづくりを協働して推進します。				
年度別計画	令和元(2019)年度 ○サッカー教室の実施 ・あおぞらサッカースクール ・子どもサッカー体験教室 ○指導者講習会の開催 ○F C東京との情報交換や事業検討のための会議の定期的開催 ○F C東京に関する市民への情報発信 ○地域のスポーツチームと連携した取組	令和2(2020)年度 ○継続 ○継続 ○継続 ○継続 ○継続	令和3(2021)年度 ○継続 ○継続 ○継続 ○継続 ○継続	令和4(2022)年度 ○継続 ○継続 ○継続 ○継続 ○継続	
事業費(百万円)	3	3	3	3	



© F C東京

東京ドロバ (F C東京マスコットキャラクター)



子どもサッカー体験教室の様子 (F C東京連携事業)

参加と協働の視点

～市民等に期待される役割～

- 市民は、年齢や体力などに応じ、スポーツに親しむように努めます。
- 事業者は、市民のスポーツ参加機会の充実を支援するとともに、スポーツの振興と地域の活性化に協力します。

多様な主体との連携事例

○ 調布市民スポーツまつり

「調布市民スポーツまつり」は、昭和58（1983）年から開催しています。

味の素スタジアムを中心とした新しいスポーツ文化をはぐくむための幅広い年齢層が、スポーツ・レクリエーションに親しみ、楽しむことが出来るアトラクションを企画し、健康で明るく豊かな市民生活の形成に寄与するもので、地域住民のスポーツを通じたコミュニティ発展を目的としています。

調布市体育協会加盟団体、調布市スポーツ推進委員会等で組織する実行委員会が中心となり、様々なスポーツを体験できるアトラクションを実施し、毎年2万人を超える来場者で賑わうスポーツイベントです。

【所管課】スポーツ振興課

【協働のパートナー】調布市体育協会、調布市体育協会加盟団体、調布市スポーツ少年団、調布市スポーツ推進委員会、味の素株式会社、アフラック生命保険株式会社、京王電鉄株式会社、味の素スタジアム、FC東京、関東学生アメリカンフットボール連盟、Giants Mestod シミズオクトベースボールアカデミー、調布市ラグビーフットボール協会、東京オーヴァル京王閣、東京ガスラグビー部、東京都十一市競輪事業組合、東京都多摩障害者スポーツセンター、東京体育機器株式会社、長野県木島平村、日本近代五種協会、EURO SPORTS味の素スタジアム店、リクシルディアーズ（2018年度実績）



＜調布市民スポーツまつりの様子＞

○ 府中調布三鷹ラグビーフェスティバル

ラグビーワールドカップ2019™日本大会及び東京2020大会の7人制ラグビーの開催が予定されている味の素スタジアム周辺の府中、調布、三鷹の3市が、連携してラグビーイベントを開催することで、大会に向けた市民の機運を醸成しています。

小学生を対象としたタグラグビー教室や、ラグビーのトップリーグのチームによるエキシビション、ラグビー体験エリアや地元3市PRブースの出展など、ラグビーに親しめる機会を創出しています。

【所管課】オリンピック・パラリンピック担当、スポーツ振興課

【協働のパートナー】ラグビーフェスティバル実行委員会（調布市、府中市、三鷹市、サントリーサンゴリアス）、調布市ラグビーフットボール協会、府中市ラグビーフットボール協会、三鷹ラグビー協会、リコーブラックラムズ、東芝レイブルース、東京ガスラグビー部、SUN HAWKS、杏林大学医学部ラグビー部、日本無線ラグビー部、東京外国語大学チアリーディング部、武蔵野の森総合スポーツプラザ（2018年度実績）



＜ラグビーフェスティバルの様子＞

○ FC東京とのパートナーシップに基づく取組

味の素スタジアムを本拠地とするFC東京とのパートナーシップに基づき、FC東京のコーチによる子どもサッカー体験教室や指導者講習会、障害児・者を対象としたサッカースクールなどをはじめとする様々な事業を通じて、市のスポーツ振興のみならず、青少年の健全育成、市民の健康づくり及び地域振興等のまちづくりをFC東京と連携して推進しています。

【所管課】スポーツ振興課

【協働のパートナー】FC東京



＜子どもサッカー体験教室の様子＞